

「社会福祉学研究」発刊に寄せて

文学部長 伊 藤 正 義

平成8年4月、本学に社会福祉学科が開設され、今年二年目を迎えた。時代の要請を反映して、発足時より多くの関心を集め、質の高い学生が勢揃いした。加うるに、充実した教授陣は、年次を追ってほぼ完成に近づきつつある。かくて社会福祉学科は、本学において最も若い学科ではあるが、およそ新設の当初は多年の蓄積に及ばぬ以上、不足不備なる面のあることは免れずとはいえ、それを補って余りある新興の意気がある。旧弊を排し、新風を吹かせ、もって将来を画する気概に満ち満ちた現在がある。さればこそもう二度とはないこの機にあたって、教員も学生もうって一丸となり、新学科の経営に努められて、発足以来教育面に新機軸を試みつつある社会福祉学科が、いまここに研究誌の刊行をみるに至る。必然の過程とはいえ、車の両輪に譬えられる教育と研究の成果を世に問うことは、とりもなおさず学科充実の証というべきであろう。

社会福祉という領域は、学問的にはまだ若く新しい分野だと言ってよいのだろう。従って、今後に期待される学的展開は、ますます深化と拡がりを示すに違いない。この研究誌を介して神戸女子大学の社会福祉学が、学界に独自の学風を誇る時が遠からず到来することを念じて、発刊の祝辞としたい。

(1997年6月10日記す)

創刊にあたって

社会福祉学科主任 久松英保

本学の文学部に社会福祉学科が開設されてから一年余が過ぎた。この間、将来を展望した特色のある社会福祉専門教育の在り方を模索し、その基盤づくりに多くの時間を割いてきた。社会福祉学科の教育・研究体制も一応ととのい、不完全ながらようやく関係スタッフが各自の研究に専念し得る状況となった現段階で、各領域の研究成果の一端を公表して、ひろく学界の批判を求め、ご指導を仰ぐことにした。

もとより未だ機が熟さないままでの研究誌の創刊であり、不備の点が多々あることは否めない。先学各位のご誘掖を賜り、われわれは、今後この機関紙を守り、育てて、社会福祉の研究と実践にささやかではあるが確実に寄与していきたいとおもう。

関係のある多くの皆様のご支援をお願いする次第である。

1997年6月